

# 吉賀町立朝倉公民館

～吉賀町サクラマスプロジェクトを通して～

## 1 朝倉地区の概要

人口	745 人	世帯数	336 世帯	高齢化率	44.95%
学校	保育所 1、小学校 1、				

朝倉地域は吉賀町の最西端に位置し、稲作が盛んな地域である。地域の農業グループによる「田んぼの生き物調査」や「うまい米選手権」などの活動が盛んに行われている。また、国指定重要文化財「旧道面家住宅」があり、地域の方が手入れをされるなど大切にしている。

公民館は、注連川・朝倉・蓼野の 3 つの地区の中央に位置し、近くに朝倉保育所、朝倉小学校がある。学校の活動に地域の方が入りやすいように、公民館がコーディネーターとして学校と地域住民とをつないでいる。小学校は全校児童 27 名という複式学級のみの小規模校ということもあり、地域とのかかわりも多く、運動会は保育所・小学校と地区民が合同で実施し、40 年以上続いている。



## 2 吉賀町立朝倉公民館の概要

### (1) 地域の課題

朝倉地域の高齢化率は 44.95%と町の 41.06%を上回り、少子高齢化が進展している。蓼野地区は高齢化率 63.1%と大変高い。また、少子高齢化に伴い、核家族化、地域住民同士のつながりの希薄化等の問題から、昔なら親だけでなく祖父母や地域の方から教えてもらった四季折々の伝統行事、暮らし方、地域のことを知る機会があったが、現在は知る機会が減少している。

### (2) 課題解決に向けた公民館の戦略

吉賀町では教育の長期的な取組として「サクラマスプロジェクト」を推進している。このプロジェクトは学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで「ふるさとでの学びや体験をもとに、いつの日かふるさと吉賀町を支える人材(財)の育成」に向けた取組である。子ども達の「心のふるさと」として吉賀町を意識できるように、吉賀町での「豊かな学びや体験」「豊かな人との関わり」をキーワードに取組んでいる。

公民館でもサクラマスプロジェクトを念頭におき、多世代交流事業を通して朝倉の宝に気付くような「豊かな学びや体験」「豊かな人との関わり」の場や内容の充実を図っている。また、「つながり」こそが地域の本当の宝であることに住民が気付き、そのつながりを深めていけるよう三郷(さんきょう)の里ふれあい祭りなどを行い、多世代が参加し楽しく活動できるように取組んでいる。朝倉には豊かな自然がある。その良さを生かし、子ども達にも大人にも発想の転換を図りたいと思い、学校や地域と連携し、多世代交流による学び、子どもとの関わりに重点を置き、事業を推進している。

## 3 特色のある取組

### 朝倉で遊ぼう！学ぼう！

#### (1) 事業のねらい

- ・地域の課題を踏まえ、子どもも大人も関わり合い、つながりを持てるような企画をし、

健やかにそして地域の素晴らしさが感じられる交流事業とする。

・三郷（注連川・朝倉・蓼野）の地区の交流及び高齢者と子どもの交流を促進することによって、地域全体の連携強化、活性化を図る。

## （２）具体的な取組

### ○４月２９日「山菜取りと魚釣り」

地域の野山には雑草と思っていた中にもたくさん食べられるものがあることを知る。魚釣りでは、地域の人による手作り竹竿、餌入れを使い、オイカワ、カワムツ、奇跡的にオヤニラミを釣る。魚の種類やさばき方も学び、自然の恵みに感謝するとともに、地域講師や食事作りボランティアの方との交流も深めた。



### ○８月２２日「星空観察会」

天文台ではなく、地域の空で星空を見せたいと企画。悪天候による３回の順延。外部講師から地域講師へ急きょ変更したが、霧の晴れ間の奇跡的な開催となった。グラウンドにシートを広げ、180度広がる満天の星空を眺める。土星の輪、夏の大三角、天の川、流れ星を見ることで、身近にこんなに素晴らしく、きれいな星があることを再認識でき、とても感動した。



### ○１０月２０日「河山探検」

炭窯作りの伝承などで地域を盛り上げている河山集落を探検。炭窯を初めて見学する子どもと、子どもの時に炭作りをしたお年寄りの世代間交流を図る。古くなった農具を祀り、収穫に感謝するめずらしい「農具の神様」を紹介してもらう。愛宕神社に参拝、散策、ヤマメ釣り、バーベキューなどにより河山集落の自然を満喫した。山間部の集落において、地域を愛する方々とのつながりの大切さを再認識した。

## （３）成果と課題

### ア 成果

○「豊かな学びや体験」「豊かな人との関わり」の場を増やすとともに、活動内容を充実させることができた。

○子ども達からは「珍しいオヤニラミが釣れて嬉しかった。また今度もやってみたい」「土星の輪がはっきり見えた」などの声が、また、参加した大人からは「このような身近な雑草が食べられるのを知らなかった」「小さい頃はしたけれど、久しぶりにやってみて楽しかった」などの声が聞かれ、子どもにも大人にも、実感を伴った楽しい学びの場を創ることができた。

○活動内容を充実させることにより参加者が増え、新たな地域講師やボランティアなど公民館活動へ関わる方を増やすことができた。

### イ 課題

○子どもと高齢者の世代間交流はできつつあるが、親世代のつながりが少ない。保護者世代への参加者の呼びかけや参加しやすい内容などを今後企画していきたい。

## （４）今後の方向性

地域には宝があり、それは人であり、物であり、場所である。何が本当の豊かさなのか、子ども達に感じ、気付いてほしい。つないでいくことの大切さを長年にわたり伝えてきた地域の方々、それが次の世代にも続いて行ってほしい。朝倉地区の宝とは、人と物、人と場所、子どもと高齢者など様々な「つながり」であると感じている。そのつながりをもっと深まるような取組を検討し、体験型の交流事業をこれからも継続していく。